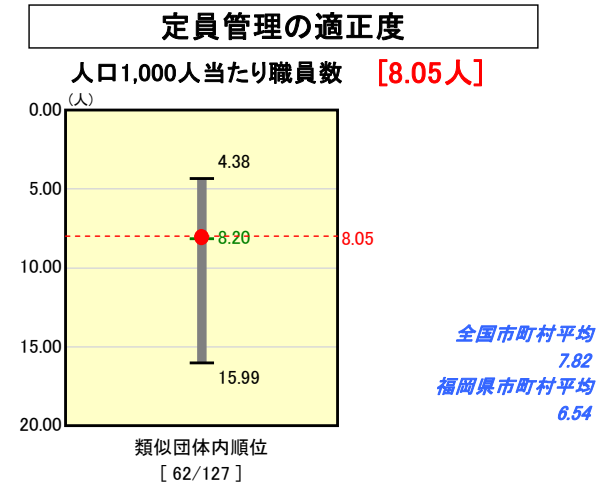
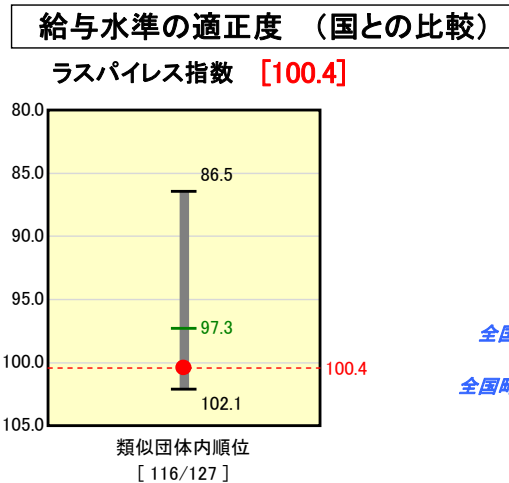
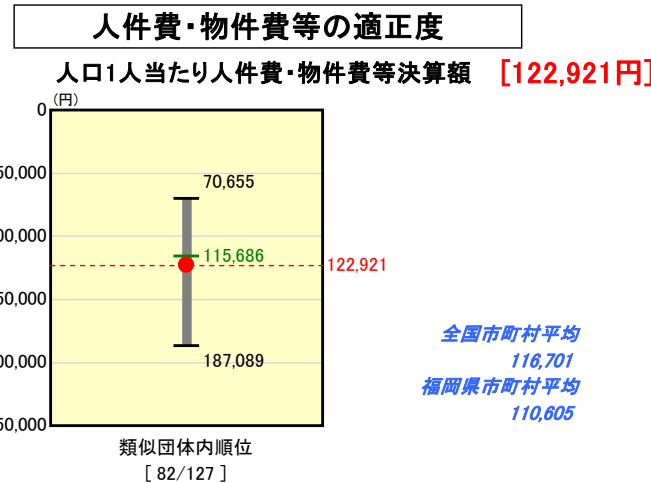
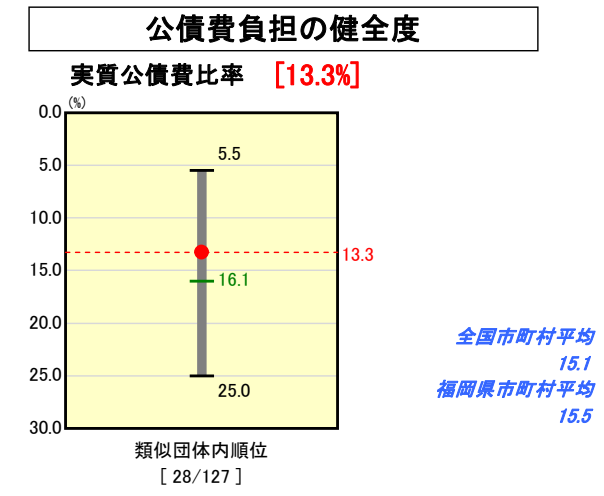
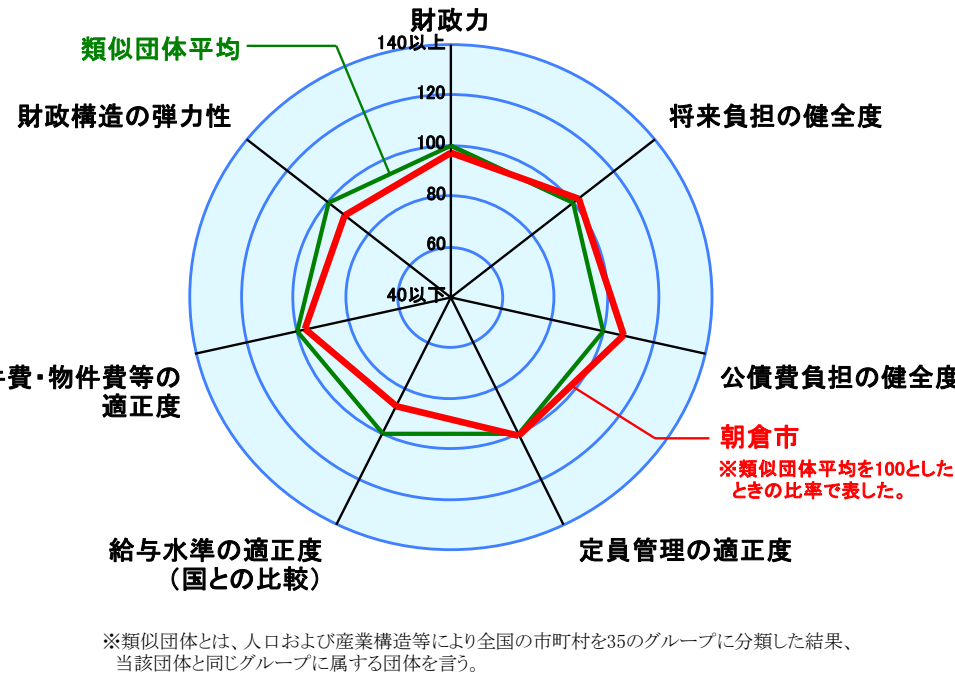
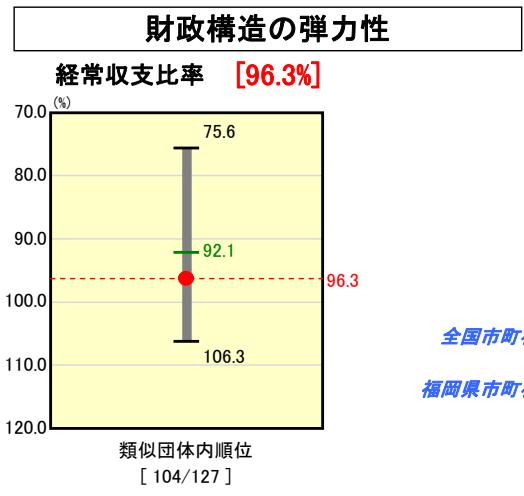
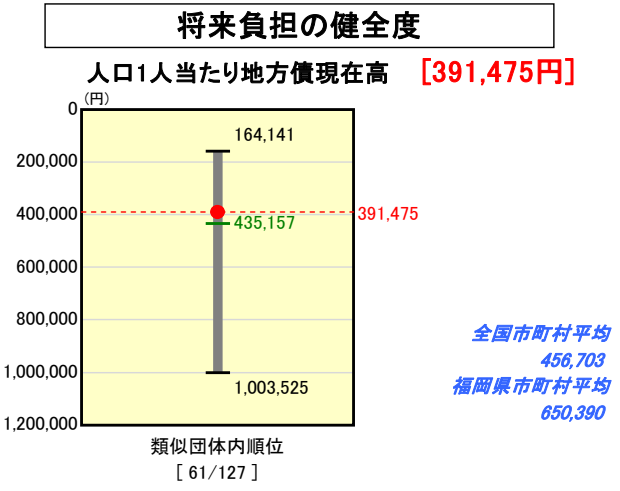
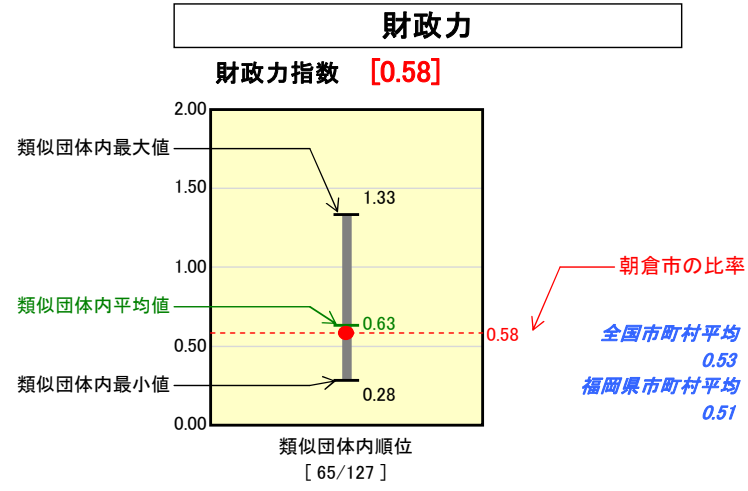


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

福岡県 朝倉市

人口	60,234 人	(H19.3.31現在)
面積	246.73 km ²	
歳入総額	23,647,743 千円	
歳出総額	23,467,800 千円	
実質収支	130,056 千円	



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数・・・昨年度に比べ0.4向上しているが、依然として類似団体平均を下回っている。歳出削減を進めつつ税の徴収強化等財源確保に努める。

経常収支比率・・・平成17年度の91.7から急激に上昇しているが、これは合併後に旧甘木市が退職手当組合に加入したことで、その掛金が経常経費となったこと及び下水道事業の分流式に対する繰り出し基準が新設されたことにより経常経費が増加したことが要因にある。合併による人件費の削減を進めつつ、より一層のコスト削減に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額・・・昨年度から16,484円の減少となっているが、類似団体平均を上回っている。事業の民間委託、指定管理者制度の導入等を進めるとともに、合併によるメリットを生かして経常経費の削減に努めていく。

ラスパイレズ指数・・・類似団体平均を3.1、全国市平均を2.5上回っている。全国的に見ても高い水準であるため、今後給与制度・各種手当の見直しを進め、適正化を図る。

人口1人当たり地方債現在高・・・一人当たりの地方債現在高は昨年度比1,379円増加している。これは地方債現在高自体では減少しているものの人口の減少に伴い、人口1人当たりの数字が大きくなっている。今後は合併特例事業が多く予定されており、地方債現在高自体も増加するため、緊急度・住民ニーズを的確に把握のうえ、事業の選択を行っていく。

実質公債費比率・・・類似団体平均を下回っているものの、昨年度に比べ0.4%増加している。今後も一般会計から下水道特別会計への繰出金の増加等に伴う率の増加が予想されるため、緊急度・住民ニーズを的確に把握のうえ、事業の選択を行っていく。

人口1,000人当たり職員数・・・合併効果により職員数は減少している。今後も事業の民間委託・公の施設の指定管理者制度導入などを進め、また新規採用の抑制を進め適切な定員管理を行う。